

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 5 月 12 日 (2005.5.12)

【公表番号】特表 2001-514619(P2001-514619A)

【公表日】平成 13 年 9 月 11 日 (2001.9.11)

【出願番号】特願 平 10-536229

【国際特許分類第 7 版】

C 07 D 277/34

C 07 D 263/44

C 07 D 277/36

C 07 D 413/12

C 07 D 413/14

C 07 D 417/12

C 07 D 417/14

//(C 07 D 417/12

C 07 D 213:74

C 07 D 277:34)

【F I】

C 07 D 277/34

C 07 D 263/44

C 07 D 277/36

C 07 D 413/12

C 07 D 413/14

C 07 D 417/12

C 07 D 417/14

C 07 D 417/12

C 07 D 213:74

C 07 D 277:34

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 8 月 17 日 (2004.8.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年 8月17日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第536229号



2. 補正をする者

氏名(名称) スミスクライン・ピーチャム・パブリック・
リミテッド・カンパニー

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 請求の範囲

5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容
別紙のとおり。

(別紙)

請 求 の 範 囲

1. 5- {4- [2- (N-メチル-N- (2-ピリジル) アミノ) エトキシ] ベンジル} -2, 4-チアゾリジンジオンまたはその互変異性体もしくはその塩もしくはその溶媒和物の製造方法であって、5- {4- [2- (N-メチル-N- (2-ピリジル) アミノ) エトキシ] ベンジリデン} -2, 4-チアゾリジンジオンまたはその互変異性体もしくはその塩もしくはその溶媒和物を、水素化錯体還元剤または水素化錯体還元剤の源で処理し、その後必要に応じて、5- {4- [2- (N-メチル-N- (2-ピリジル) アミノ) エトキシ] ベンジル} -2, 4-チアゾリジンジオンの医薬上許容される塩もしくは医薬上許容される溶媒和物もしくはそれらの互変異性体を得ることを特徴とする方法。

2. 水素化錯体還元剤が水素化ホウ素還元剤または水素化アルミニウム還元剤である請求項1記載の方法。

3. 水素化ホウ素還元剤がジボランまたは水素化ホウ素金属である請求項1または2記載の方法。

4. 水素化ホウ素金属が水素化ホウ素アルカリ金属である請求項3記載の方法。

5. 水素化ホウ素金属が水素化ホウ素リチウム、ナトリウムまたはカリウムである請求項3または4記載の方法。

6. 水素化ホウ素金属が未置換であるか、あるいはアルキルおよびフェニルから選択される3個までの置換基でホウ素が置換されている水素化ホウ素化合物である請求項3ないし5のいずれか1項に記載の方法。

7. 水素化ホウ素金属が、水素化トリセーブチルホウ素リチウム、水素化トリセーブチルホウ素カリウム、水素化トリセーブチルホウ素ナトリウム、水素化トリフェニルホウ素カリウム、水素化トリエチルホウ素リチウム、水素化ホウ素リチウムおよび水素化ホウ素ナトリウムからなるリストから選択される請求項3ないし6のいずれか1項に記載の方法。

8. 水素化錯体還元剤が未置換水素化ホウ素化合物であり、塩基の存在下で反

応が行われる請求項 2 記載の方法。

9. 塩基がピリジン、置換ピリジン、キノリン、置換キノリン、第 2 級もしくは第 3 級アミンまたはホスフィンである請求項 8 記載の方法。

10. 塩基が反応のための溶媒または共溶媒として用いられる請求項 8 または 9 記載の方法。

11. 塩基がピリジンである請求項 8 ないし 10 のいずれか 1 項に記載の方法。

12. 水素化アルミニウム還元剤が水素化リチウムアルミニウムである請求項 2 記載の方法。